

第2部 分析と考察

ここからは、今年度の OP21 委員各位による分析と考察のレポートを紹介します。委員それぞれが、独自の視点で興味深い分析をしています。是非ご一読ください。

レポート1. 授業への取り組みの経年変化

「最近の子は…」はよく聞く話である。本校に限ったことではないし、ピラミッドの時代から「いまどきの若者は」と言われていたそうである。せっかく 14 年間のデータがあるので、ピックアップせず、全数を数値化した。新入生、つまり 1 年生だけを対象にした。

項目は、生徒の「授業時間中に集中できている（集中と略、以下同様）」「授業内容はよく理解できている（理解）」、保護者の「授業についてよく話す（話す）」「よく理解できているようだ（理解）」、教職員の「熱心に受けている（熱心）」「よく理解できているようだ（理解）」を取り上げた。

見やすい様に指数化した。指数は、「よく」を3倍して足し、「やや」をそのまま足し、「あまり」をそのまま引き、「ない」を3倍して引いたものである。よく・やや・あまり・ないが等間隔に並ぶことになる。

表中の「現役国公立」は、新入生が3年生になって大学入試に取り組み、現役で国公立に合格した数である。その学年の学力を図る指標として使用する。

入学年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
期生	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74
現役国公立	54	54	53	85	61	54	65	55	52	53	53			
生徒集中	76	66	56	62	69	71	79	94	95	96	69	112	92	110
生徒理解	42	31	22	29	19	32	16	50	46	58	44	74	76	70
保護話す	-37	6	-23	-22	-14	-28	-10	-18	-15	-6	-26	-1	-8	-10
保護理解	14	16	-14	14	6	8	25	28	18	24	5	22	36	26
教員熱心	150	174	167	144	112	148	168	150	178	156	172	142	155	128
教員理解	126	99	77	88	60	82	103	83	92	86	98	104	110	76

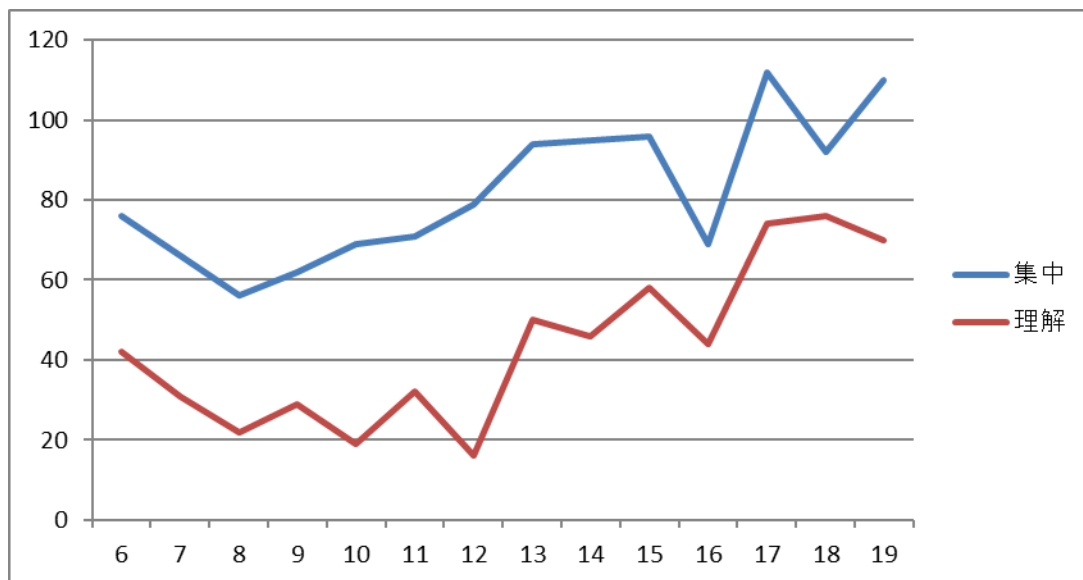
<考察その1> 全体を見て

生徒は自己評価として、集中していると思っている。そのわりに、理解できていないと感じている。がんばっているのに、成果に現れない苦悩を抱えた生徒が見て取れる。

保護者は、自分の子があまり授業のことを話していないと思っている。全然話さない生徒も 16.5%いる。そのぶん、わが子が授業をよく理解していないと感じている。ただし、親が思っているよりも生徒は授業をよく理解している。

教員は、生徒の授業態度について高く評価している。熱心が 35%、やや熱心が 57%ある。理解度についても、生徒の指数 45、保護者の指数 16 にたいして教員の指数は 92 で、抜群に高い。ただ、熱心さへの評価に比べると理解度への評価は低いともいえる。「頑張っているんだけどね」。

<考察その2>生徒を見て（縦軸は指数、横軸は入学年度、以下同様。上の線が「集中」）



ほぼ並行に推移することから、数値の信頼性が高いといえる。

まず見えるのが、ゆるい右肩あがりである。生徒はだんだん自己評価を高めていっている。06年入学生（以下、06）から2年間下がり続け、08で底をうち、以後でこぼこはあるがおおむね上昇に転じる。なにがあったのか。

08は単位制改編の一期生である。どんな学校なのかよくわからない状況のなかで自己評価を低めてしまった。単位制改編ともに、鳳は前期入試となり、チャレンジ組を含めて2倍を超える競争率になった。勝ち抜いたという自信より、単位制への不安のほうが大きかったのか。

09は驚異的に進学実績を上げた学年である。平均58名程度の国公立合格者数、この「伝説の学年」は85名いる。新入学時にはもちろんそんなことはわからないが、ふたを開けてびっくり。理由として一番有力な説は「単位制に改編され、初年度は中学も塾も様子見していたが、2年目に安心感をもち、優秀な受験生が集まった」。実際、前期入試で鳳を落ちて、後期入試で泉陽高校に合格したものもたくさんいる。学校としても、単位制の利点への理解が進み、生徒の学力増強にプラスに作用したことも考えられる。

もう一つ、これは2013年度版の報告書にあるグラフであるが、09はその前後に比べて、「経済的理由から私学ではなく鳳高校に進学した」が突出して多い年である。これは、その報告書にも記述があるが、前年（2008年）のリーマンショックによる突然の不況が影を落としているのだ。私学へ行っていたかもしれない優秀な受験生を公立が取り戻した年でもある。

自己評価の低い学年が、高い実績を残したことも注目すべきことである。

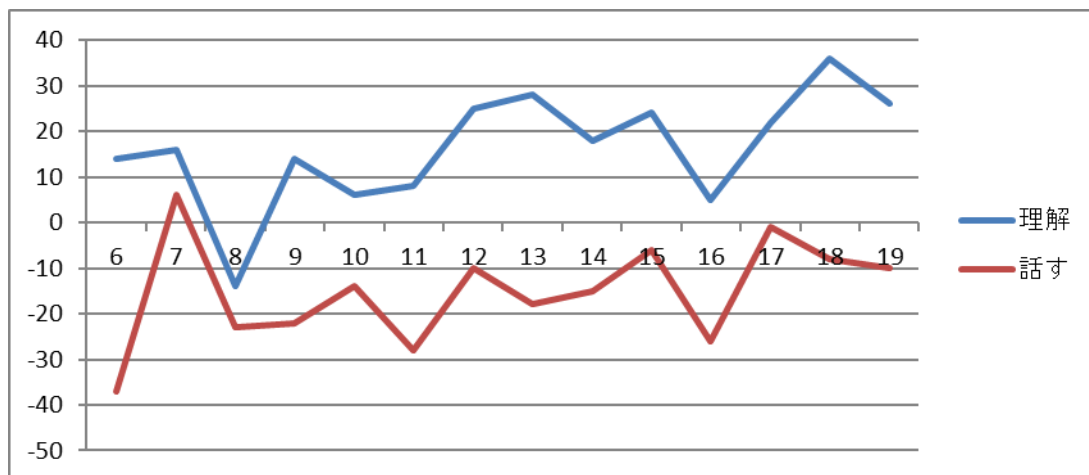
また、目立つのは2016年入学（71期生）の自己評価の低さである。なにがあったのか。

06から15まで前期入試、16から後期入試に戻る。前期入試のときは「一発勝負かけてダメモトで鳳に挑戦」もあったが、後期入試になるとそうも行かない。多くの府立高校の中からあえて単位制の鳳を選び、それがまた不安の要因でもあろう。

一般に、制度が変わるとき、不安は自己評価を低める原因になることが見て取れる。

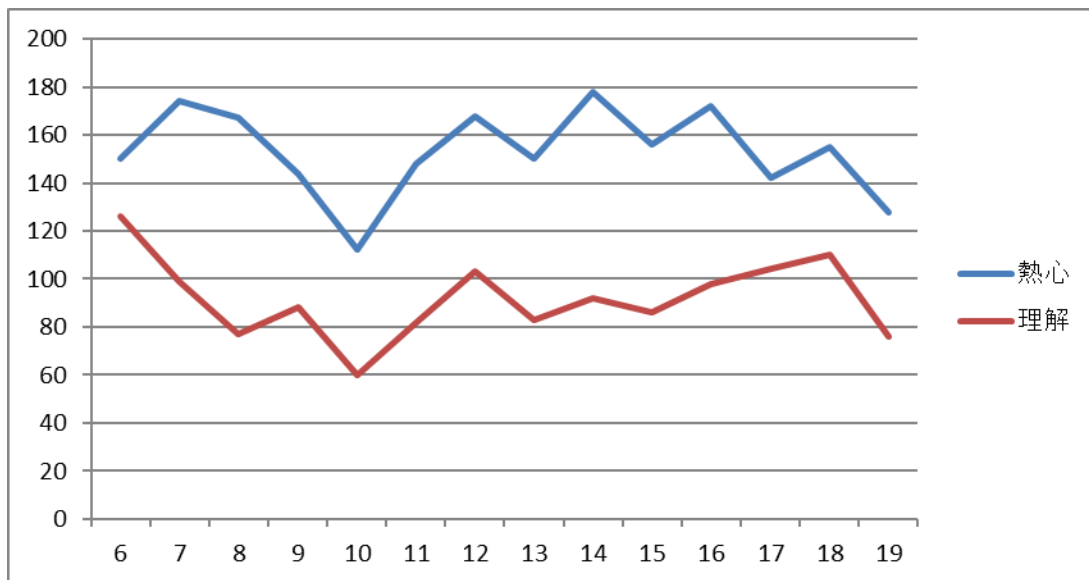
全体として自己評価が上がってきているのは、けっして生徒の集中や理解が増進したことを表さない。評価基準が下がっただけである。

<考察その3> 保護者を見て（上の線が「理解」）



やはり単位制改編期、後期入試実施時に落ち込んでいる。親子で不安を共有し、自己評価を低めている。改編期は、何かと情報がほしいのに、子供はろくに話してくれないという焦燥が透けて見える。また、そのことは子供の学力への信頼を傷つけている。一部に例外はあるが、ほぼ並行して推移するのは、そういうことだろう。

<考察その4> 教職員を見て（上の線が熱心）



低評価になるのは、生徒や保護者とは、タイムラグがあるようだ。生徒・保護者にとっては、自分の学年がすべてであるが、教職員にとっては3年次までそろってやっと改編ということであろうか。生徒・保護者で見られた「16 落ち込み」は、教職員にはない。

10 で底を打って、以後ジリジリ上げて、高止まり状態だったものが、19 にまた下がっている。これは保護者のグラフでも言えることだ。どうしたことだろうか。

＜考察その5＞ 再び全体を見て

三つのグラフの示すところは、単位制が安定期を越えてしまいつつあるということである。

改編期に自己評価が下がることは、学力が下がることを意味するものでは決してなく、むしろ不安の表明である。それがしだいに評価を上げてくる（繰り返すが、学力向上を意味しない）のは安心安定の現れである。それがまた 16 年度の後期入試への復帰によって、安心安定が失われ、グラフが上下し、また下がってくる（6本の折れ線のうちの5本まで）。

昨今の鳳高校、「単位制の曲がり角」の様相は、OP委員会のアンケート数値だけの話ではない。改編期に、希望に胸を膨らませて作ってきた多くの学校設定科目がなくなりつつあるし、生徒の選択もスタンダードタイプ（モデル案に忠実）に偏りがちだ。てか、少人数科目が押しつぶされて、そうせざるを得ない状況もある。

「進学校の伝統と単位制のウマミを兼ね備えた、オトクな学校」が広報のウリだった。昨今、必ずしもそういいきれないもどかしさが出てきた。いまさら単位制をやめることはない（教員定数確保の点からも）。単位制のウマミを生かした上で、新たな安心安定を目指す…あ、また新しい変革には新しい不安からの自己評価低下が起きるんだろうなあ。

レポート2. 講習参加と授業理解・質問積極性・通塾との関係

生徒への新設の質問[24]の講習参加回数別に、質問[3]授業の理解度、質問[4]教師への質問の積極性、質問[24]塾・予備校に通っているかどうかの相関関係を調べた。

①講習参加回数と授業理解の関係

講習×理解		1年生			2年生			3年生		
講習	理解	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見
なし	よく	27	11%	74%	28	14%	71%	19	22%	71%
	やや	153	63%		118	58%		41	48%	
	あまり	55	23%		53	26%		18	21%	
	ない	7	3%		6	3%		7	8%	
1種	よく	7	13%	79%	9	13%	67%	11	15%	85%
	やや	35	66%		37	54%		52	70%	
	あまり	11	21%		21	30%		10	14%	
	ない	0	0%		2	3%		1	1%	
2種	よく	3	23%	77%	5	19%	70%	9	19%	81%
	やや	7	54%		14	52%		30	63%	
	あまり	3	23%		8	30%		9	19%	
	ない	0	0%		0	0%		0	0%	
3種以上	よく	0	0%	100%	2	15%	69%	25	24%	83%
	やや	2	100%		7	54%		61	59%	
	あまり	0	0%		4	31%		13	13%	
	ない	0	0%		0	0%		4	4%	

*全学年，講習参加回数と授業の理解度（肯定意見）の間に相関関係は見られない。

※講習に参加しているため授業が理解できている生徒もいる？

*1年生の理解度を細かく見ると，2種類参加者は「よく理解」の割合が増えている。

⇒講習に2種参加していると効果的??

②講習参加回数と教師への質問の積極性の関係

講習×質問		1年生			2年生			3年生		
講習	質問	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見
なし	よく	28	12%	51%	31	15%	49%	13	15%	48%
	やや	96	40%		69	34%		28	33%	
	あまり	86	36%		82	40%		31	36%	
	ない	31	13%		23	11%		13	15%	
1種	よく	14	26%	60%	13	19%	65%	9	12%	50%
	やや	18	34%		32	46%		28	38%	
	あまり	18	34%		15	22%		28	38%	
	ない	3	6%		9	13%		9	12%	
2種	よく	6	43%	71%	4	15%	78%	7	15%	50%
	やや	4	29%		17	63%		17	35%	
	あまり	4	29%		6	22%		21	44%	
	ない	0	0%		0	0%		3	6%	
3種以上	よく	0	0%	50%	2	15%	54%	20	19%	52%
	やや	1	50%		5	38%		34	33%	
	あまり	1	50%		5	38%		39	38%	
	ない	0	0%		1	8%		10	10%	

*1・2年生の講習参加回数と教師への質問の積極性には相関関係が見られる。

（3年生には全く見られない…不思議）

*2年生の講習3種以上は特徴が異なる。

*1・2年生の2種以下を細かく見ると，

1年生では特に「よくあてはまる」の割合が増加している。

2年生では「よくあてはまる」よりも「ややあてはまる」の割合が特に増加している。

③講習参加回数と塾・予備校に通っているかどうか ※肯定意見は「Yes」＋「予定」の%

講習×塾		1年生			2年生			3年生		
講習	塾	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見
なし	Yes	76	31%	37%	82	40%	60%	53	62%	65%
	No	153	63%		82	40%		29	34%	
	予定	13	5%		40	20%		2	2%	
1種	Yes	14	26%	34%	29	42%	62%	51	69%	73%
	No	35	66%		26	38%		19	26%	
	予定	4	8%		14	20%		3	4%	
2種	Yes	5	38%	46%	13	48%	59%	38	79%	79%
	No	7	54%		11	41%		10	21%	
	予定	1	8%		3	11%		0	0%	
3種以上	Yes	1	50%	50%	3	23%	38%	74	73%	73%
	No	1	50%		8	62%		28	27%	
	予定	0	0%		2	15%		0	0%	

*全学年、相関関係はあまり見られない。

④感想

*各学年でどのような講習が開催されているのかが気になった。

*林先生のYouTubeの解説動画（最大視聴者279名）を生徒は講習とっていない？

*3年生になると3種以上が約100名いる

⇒4種5種などの選択肢もある方が良い？「今年度の講習」と限定した方が良い？

併せて、塾に行っているかどうかと、授業理解度の関係

塾×理解		1年生			2年生			3年生		
塾	理解	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見	人数	割合	肯定意見
Yes	よく	14	14%	79%	19	15%	73%	45	21%	80%
	やや	65	65%		74	58%		128	59%	
	あまり	21	21%		35	27%		37	17%	
	ない	0	0%		0	0%		6	3%	
No	よく	23	12%	74%	18	14%	70%	18	21%	80%
	やや	122	62%		71	55%		51	59%	
	あまり	44	22%		34	27%		12	14%	
	ない	7	4%		5	4%		5	6%	
予定	よく	0	0%	67%	7	12%	64%	0	0%	80%
	やや	12	67%		31	53%		4	80%	
	あまり	6	33%		18	31%		1	20%	
	ない	0	0%		3	5%		0	0%	

* 1・2年生は塾に行っている方が理解度がやや高い

* 1・2年生は理解度の低い生徒が塾に行く予定と答えているようである。

レポート3. ICT 機器の活用と教材・学習指導の工夫との関係

教職員への新設の質問[29][30]の教材研究や授業における ICT 機器の活用の有無と、質問[12]教材の精選・工夫、質問、[13]学習指導の方法・内容の工夫・改善との間の相関関係を調べた。

準備	教材の精選・工夫				学習指導の工夫・改善			
	×	人数	割合	肯定意見	×	人数	割合	肯定意見
ある	よく	10	37%	89%	よく	10	37%	93%
	やや	14	52%		やや	15	56%	
	あまり	3	11%		あまり	1	4%	
	ない	0	0%		ない	1	4%	
ない	よく	2	29%	100%	よく	3	43%	100%
	やや	5	71%		やや	4	57%	
	あまり	0	0%		あまり	0	0%	
	ない	0	0%		ない	0	0%	

授業	教材の精選・工夫				学習指導の工夫・改善			
	×	人数	割合	肯定意見	×	人数	割合	肯定意見
ある	よく	7	41%	82%	よく	7	41%	94%
	やや	7	41%		やや	9	53%	
	あまり	3	18%		あまり	0	0%	
	ない	0	0%		ない	1	6%	
ない	よく	5	31%	100%	よく	6	40%	93%
	やや	11	69%		やや	8	53%	
	あまり	0	0%		あまり	1	7%	
	ない	0	0%		ない	0	0%	

*活用したことがない先生方の否定的な意見が全項目ほとんどなかった。

*「よく」の割合だけで比較してみると、教材の精選・工夫を行っている割合は ICT 機器を活用している方が8~10%高い。

一方で、学習指導の工夫・改善を行っている割合は ICT を準備で活用している方が6%低い！（授業で活用しているかどうかによる割合の差はない。）

⇒活用していない教員の教材の精選・工夫と学習指導の工夫・改善の「よく」の割合の差が特徴的である。

▼このICTに関する質問については、他の委員から以下のような分析もあった。

○学校全体では「教材研究」について見ると80%で授業の準備・授業で使う資料作成の簡易化などでICTはかなり利用されている。「授業活用」では52.9%で生徒側に立ってみると授業ではあまり利用されていない感じがあると思われる。

○年齢別で見ると20代～40代では「教材研究」92.3%、「授業活用」84.6%でICT化はかなり進んでいる。20代においては「教材研究」「授業活用」とも100%利用している。しかしながら、50～60代での「授業活用」では33.3%とかなり低く全体の「授業活用」の低さの要因になっていると思われる。

●<まとめ>

若い年代の教員は情報教育を受け身近に情報機器が存在していることで授業へのICT化はスムーズに進んでいる。年代が高い教員は情報教育を受けておらず、また授業経験が多いことから「ICT機器がなくても授業は成り立っているから敢えて使うことはない」「簡単に活用できる環境がなく、教師が授業でどのようにコンピュータを活用しているのか分からない」「教育効果がわからない」などから感心が薄くなかなか進んでいないように思われる。

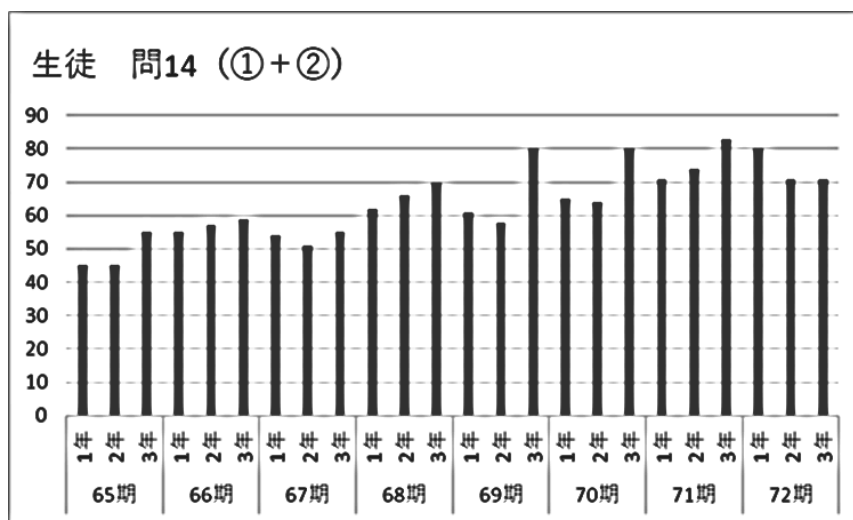
●<今後の課題>

今後学校でのICT化を考えた場合「授業活用」を進めていくため、ハード面として教室・講義室・体育館等の生徒が授業を受ける場所への機材整備を今以上に進めていくことやタブレットPC等の教員が簡単に利用できる器具の配布が望まれる。また、活用例として具体的にどの場面でICT機器が効果を発揮しているか事例をふまえた研修を行うことで教員全体のICT教育の効果を共有することが大切であると思われる。

レポート4. 「行事の意義」や「生徒の自主性」について

各種委員会等で「行事の意義」や「生徒の自主性」について話題になっているので探ってみました

☞(生)問14 自治会の行事は自主性・連帯感を高めることに役立っている。

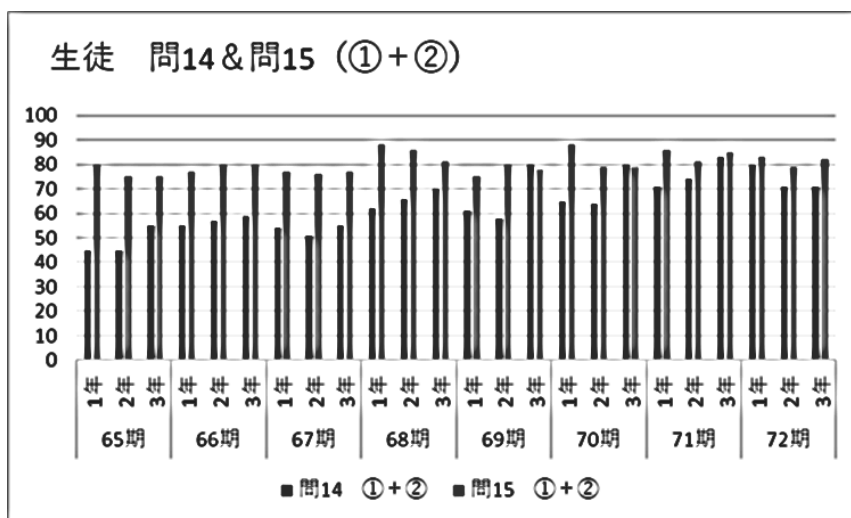


☆例外のある学年もあるが、学年を追うごとに肯定意見が増える傾向がある。
 期を追うごとに、全体的に肯定意見が増えている。

★学校生活での勉強以外の経験を肯定的にとらえられる生徒が増えることはうれしい結果。70期以降は肯定意見が60%越。教職員、自治会が学校行事の意義を生徒にしっかり伝えられている？

★1→3に向かって肯定意見が増えるのはなぜ？（生）問15「自分は積極的に行事に参加した。」についても上と同様の傾向があり、「行事に積極参加するようになるので行事に対する肯定感が強まる。」という仮説をたてました。

☞（生）問15「自分は積極的に行事に参加した。」に（生）問14のグラフを重ねてみる…。

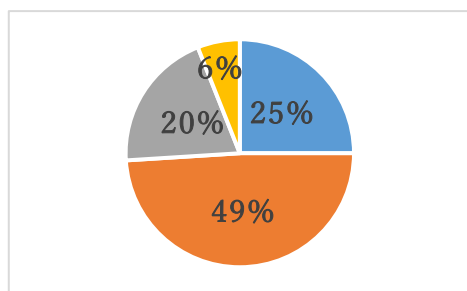


☆むしろ1年生のほうが積極的に参加しているという結果。

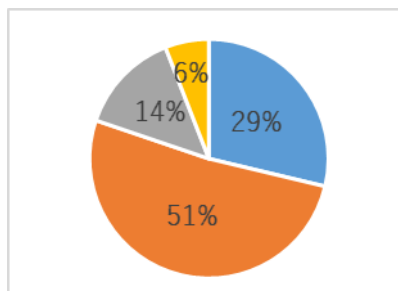
★ということは、行事への積極参加と行事への肯定感にはそれほど相関性がない？
 行事の意義は理解できるものの、参加意欲は低くなる…という不思議な現象。学年を追うごとに、クラブや勉強が忙しくなり、行事に時間を割くのが難しくなることが背景？

レポート5. 67期生と72期生の比較

●自己管理能力（自立・自律、時間の使い方・マナーなど）は十分ある（生徒）



67期

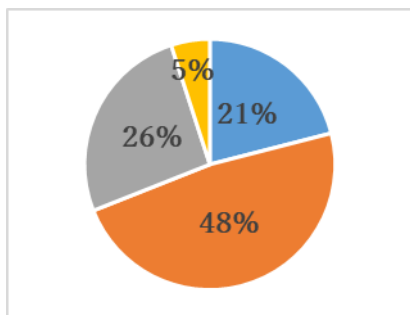


72期

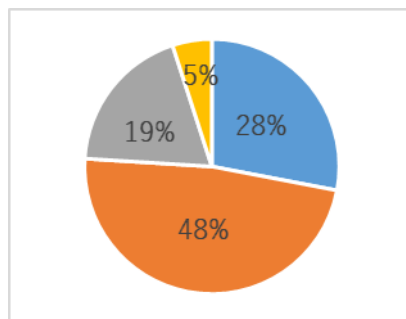
72期の方が、自己管理能力について自信を持っている生徒が多い(よくあてはまる、ややあてはまるを合わせて7%増)が、私の実感としては、休み時間にスマホを触ってゲーム等をしている生徒は72期の方が断然多いように思う。テスト前なのに教室に残ってゲームをして遊んでいたり、夜中も生徒同士一緒にオンラインゲームをしていたりなど、自己管理能力が高まったというよりは、危機感を持っていない生徒が増えたのではないかと思う。

●コース選択や科目選択のための情報は学校からよく提供された(生徒)

67期生



72期生



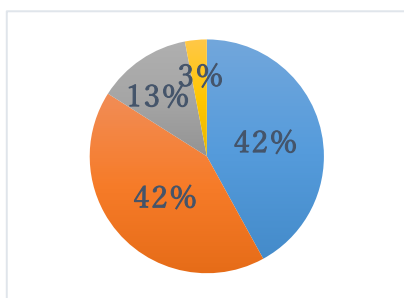
選択に迷った生徒は、72期の方が多く(よくあてはまる、ややあてはまるを合わせて6%増)が、学校からそのための情報がよく提供されたと感じている生徒も72期の方が多く(同7%増)。与えられた情報が多いと、より生徒も悩むのだろうか。

やりたいこと、将来が見えている生徒にとっては、情報は多ければ多いほうが良いのかもしれないが、そうでない生徒にとっては、過剰に情報を与えることはあまり意味がないかもしれない。

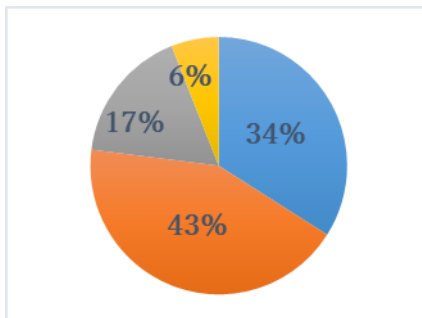
かといって、情報を与えないでいると、何も考えられない生徒が増えるような気もするので、その匙加減が難しい。

●コース選択や科目選択のための情報は学校からよく提供された(保護者)

67期生



72期生



72期の方が、進路決定に必要な資料を自分で集める努力をしていないと保護者が感じている(7%減)

※ 生徒との受け止め方の違いは、生徒から保護者への情報の伝達がうまくいっていないことの現れともとれる。

実はこの情報提供に関する項目については、10年前のデータとの比較でも生徒に関しては肯定的結果が増加していることが報告されている。

生徒 09年 19年 09年 19年
 よく 26% → 43% よくやや 75% → 89%

進路指導部を中心に、必要なタイミングに的確な情報提供がなされているという一定の裏付けではないか。

レポート6. 鳳高校に対する生徒・保護者の学校満足度について

学校に対する満足度と入学時に鳳高校を志望した理由を表にまとめた。

- ・生徒「本校に入学して満足している」
 - ・保護者「本校に入学させて満足している」
- ともに ①よくあてはまる ②ややあてはまる の2項目(肯定意見)を抽出
- ・2年生、3年生の志望理由は2018年、2017年のアンケート結果を参照

		満足度		志望理由						
		よく+やや	割合(%)	単位制	学力	塾・中学	保護者・家	クラブ	伝統・校風	その他
1年生	生徒	256	81	33	194	10	16	12	10	39
	保護者	183	86	18	117	10	4	22	21	17
2年生	生徒	262	83	33	174	14	14	27	2	50
	保護者	193	94	19	130	6	8	17	19	20
3年生	生徒	211	70	34	173	7	13	21	8	50
	保護者	178	85	23	130	9	8	20	13	31

1年生・2年生については生徒・保護者ともに学校満足度は80%以上の高い数値となっている。しかし、3年生については保護者の満足度は85%だが、生徒の満足度は70%にとどまった。また、志望理由を見ると、1年生から3年生まで「学力が適当である」という項目が最も高い数値となった。ここで、「学力」と「その他」の項目を除くと

1年生：単位制、保護者家族の推薦、クラブ、塾・中学校の指導、伝統・校風

1年保：クラブ、伝統・校風、単位制、塾・中学校の指導、保護者家族の推薦

2年生：単位制、クラブ、塾・中学校の指導、保護者家族の推薦、伝統・校風

2年保：単位制、伝統・校風、クラブ、保護者家族の推薦、塾・中学校の指導

3年生：単位制、クラブ、保護者家族の推薦、伝統・校風、塾・中学校の指導

3年保：単位制、クラブ、伝統・校風、塾・中学校の指導、保護者家族の推薦

の順に高いことが分かった。これらの結果をまとめると

生徒：単位制やクラブ活動が重要、伝統や校風はあまり重要ではない 保護者：単位制やクラブ活動が重要、かつ伝統や校風も重要である

さて、単位制の最も大きな特徴とは「自分の進路にあった授業を受けることができる」であると考え、今回は生徒たちが単位制のシステムにより適応し、学校生活を満足するためにはどうすれば良いかを考察する。

<考察>

自分の進路にあった授業を受けるという事は、言い換えれば進路が定まっていな生徒にとっては授業を選択しづらい制度かもしれない。つまり、最も選択肢が多岐に分かれる3年生で自分にあった授業を選択するためには「1、2年生での進路指導」が重要であると考え。

ここで、教職員に対するアンケートを元に、生徒の学校満足度および進路指導に対する意識を調べてみた。いずれも肯定的意見「①よく + ②やや」の割合である。

- ・生徒は充実した学校生活を過ごしている 85%
- ・この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、体系的なキャリア教育を行っている 65%
- ・生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている 86%
- ・教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている 35%

結果、生徒は充実した学校生活を送っていると答えた教職員は生徒と大差はなく、進路指導に対する意識も同様であった。一方で、キャリア教育に対する意識は65%とやや落ち込み、また体験学習やボランティアに対しては35%と低い数値となった。この2点のみが原因とは断定できないが、勤労観・職業観を育む機会が充実しているとは言えないと分かっていた。よって、3年生で自分にあった授業を選択するためには、生徒たちの勤労観・職業観をこれまで以上に育む必要があると考える。

<まとめ>

以上の事から、生徒の学校満足度を高めるための方策の1つとして「キャリア教育、および体験学習やボランティア」をこれまで以上に充実させたい。具体的には、夏季休暇中に学校主催の企業訪問やボランティアを企画するなどして、生徒が実際に様々な仕事を体験し、勤労観・職業観を育む機会が増えても良いのではないかと考える。そうすれば、3年次で本当に自分にあった授業を受けることができ、学校満足度も高まると考える。

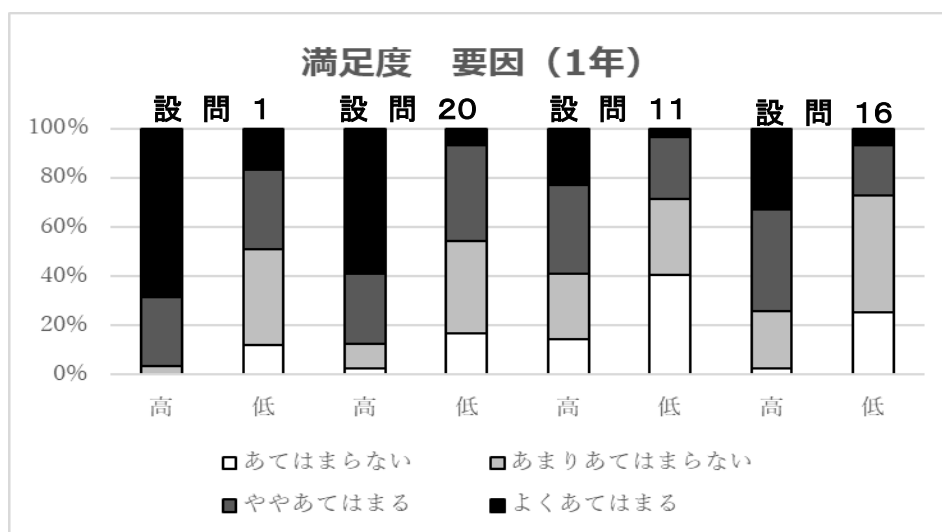
レポート7. 学年別 満足度要因調査

生徒への設問「本校に入学して満足している」の回答に注目した。この設問で満足していると答えている生徒は、学校のどのようなところで満足しているのだろうか？

「よくあてはまる」と回答した生徒をAグループ、「あまりあてはまらない・あてはまらない」と回答した生徒をBグループとし、この2グループが各設問でどのように違うのかを調査した。

設問1～20で「よくあてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として点数化した。そしてグループごとの平均点を出し、AグループとBグループで平均点の差を計算した。これらが、学校に満足している人と満足していない人が感じていることの差と見ることができる。

以下、その差が大きいものから順に4つピックアップしたものである。



- 1位 「学校に行くのが楽しい」(設問1)
- 2位 「施設・設備が充実しており、学習環境・部活動環境に恵まれている」(同20)
- 3位 「悩みや相談があるときには、保健室や相談室等で、気軽に相談することができる」(同11)
- 4位 「授業などで、豊かな心や人の生き方について学ぶ機会がある」(同16)

以下同様に2年生、3年生について調査すると、上位4つの項目は次のようになった
 <2年生>

- 1位 「施設・設備が充実しており、学習環境・部活動環境に恵まれている」(20)
- 2位 「学校に行くのが楽しい」(1)
- 3位 「悩みや相談があるときには、親身になってくれる先生がいる」(10)
- 4位 「授業中は集中できている」(2)

<3年生>

- 1位 「悩みや相談があるときには、親身になってくれる先生がいる」(10)
- 2位 「学校に行くのが楽しい」(1)
- 3位 「施設・設備が充実しており、学習環境・部活動環境に恵まれている」(20)
- 4位 「自治会の行事は自主性・連帯感を高めることに役立っている」(14)

<考察>

以上から、3学年ともに設問20「設備・環境の充実」がランクインしている。つまり、環境が充実していると感じている生徒の満足度が高く、逆にそう感じられていない生徒の満足度が低いということが分かる。この「環境」がどういったものを指しているのかはあまり見えてこなかった。学習環境なのか、部活動環境なのか…

学習環境であれば、自習室とかそういうものの充実か。それとも各教科の特色ある授業か。そういった点では単位制であり、様々な授業を選択できるということが要因として考えられるのではないか。

部活動環境ではグラウンドが考えられる。大きなグラウンドで、部活動に取り組める環境が整っているということが満足度の要因としても考えられる。

また、設問10・11「相談できる人の存在」もあげられる。先生や相談室で相談できる環境があると感じている生徒は満足度が高い。先生との信頼関係が満足度に大きく貢献しているということが言えるのではないか。同時に、信頼関係を築けずにおいて満足度が低い生徒もいるということなので、そのような生徒には先生側からのアプローチが必要なのではないか。

レポート8. 生徒と保護者と教員のアンケート結果から

まず、アンケート集計の数字を文章に置き換えてみたいと思います。そうすることで、より集計結果が分かりやすくなり、三者の違いが見えてくるのではないのでしょうか。出来るだけ設問順に置き換えますが、全問ではありません。なお、あくまでも個人的な解釈です。

<生徒が思っている鳳高生像と鳳高校>

学校に行くのが楽しく、授業にもまあまあ集中し、内容もだいたい理解できている。分からない時は先生に聞きたいが、なかなか気軽には聞きにいけない。(設問1~4) 進路のことはよく考えているが、コース選択や科目選択は、たくさん情報を与えられるが、どれを選ぶか迷ってしまう。(6, 7) 学校の授業内容には満足だし、自分で進路に関する情報も集めている。(8, 9) 相談したい時に、親身に応じてくれる先生がかなりいるが、教育相談室に行くのは抵抗感がある。(10, 11) 生活規律や学習規律などけっこううるさく指導されるが、いじめには真剣に対応してくれる。(12, 13) 学校祭などの自治会行事は、自分から進んで参加し仲間との連帯感を感じている。(14, 15) 授業のなかで、人の生き方や命の大切さなどを学ぶ機会もあるが、それほど学んでいない人もいる。(16, 17) 部活と学習の両立は難しく、苦しんでいる人も多い。(18) 自分の自己管理能力は、ほぼ大丈夫だと思う。(19)

鳳高校の学習環境や部活環境には、おおむね満足だが、まだまだ不十分だと思っている人も多い。(20) 鳳に入学して良かったと思う。(21)

<保護者から見た鳳高生像と鳳高校>

子供は学校に行くのを楽しんでいるが、授業のこととかコース選択や科目選択のことはあまり話してくれない。(1~5) 科目選択やコース選択の情報は学校からたくさん与えられているし、進路に必要な科目も選択できていると思うが、自分で必要な情報を集めているのかはやや不安。(6~8) 授業以外のことは家でもよく話しているし、学校の行事も意欲的に参加している。友人の話もしてくれる。部活と学習の両立も問題ない。(9~12) ただ、成績の情報や学校からの文書による連絡事項は、しっかり伝えてくれない。(13) 子供の自己管理能力は本人が思っているほどではなく、まだまだだと感じる。(14) 学校は進路について適切な指導をしてくれているが、家庭への連絡はもっとして欲しい。(16, 17) 生活指導や命を大切にする指導、いじめの対応などは十分ではないが、かなり取り組んでいると思う。(18~20) 学校行事や授業公開にはよく参加しているが、学校のホームページはそれほど見ない。(21, 22) 鳳の学習環境などはまあまあ整っているが不十分な所もある。(23) 鳳に入学させて満足だし、学校にもあまり不満はないが、もっと保護者の願いを聞いてほしいと思っている人も多い。(24, 25)

<教員から見た鳳高生と鳳高校>

生徒の授業態度や内容の理解には、おおむね満足。(1, 2) 進路指導や生徒の悩みの対応にもあまり不備ないと思う。(3, 4) ただし、生徒の自己管理能力は不安を感じる。(5) 生活指導、自治会行事の自主的運営、日常的教育活動、生徒や保護者の対応などは、あまり問題がない。(6~11) 学習指導方法や教材については十分に工夫され、自信を持っている。(12, 13) 問題行動の対処や教員間の協力体制も特に問題がない。(14~16) しかし、問題行動を防ぐ早期指導やキャリア教育は十分ではない。(17, 19) 生徒指導の時、家庭との連携が取れているし、進路指導も一人一人にきめ細かく行っている。(18, 20) 人権を尊重した生徒指導も出来ているが、生徒の主体的な学びや、ボランティア活動はまだまだだと思う。(21~23) 学校からの情報発信はそれなりによく行っているつもりだが、学校のホームページはまだあまり活用されていないと感じる教員も多い。(27, 28)

<三者を比較して言えることは>

- 鳳高校の生徒は、学生生活を楽しんでいること。これは保護者も同感している。
- 保護者や教員が感じている以上に、生徒はコース選択や科目選択に、そして部活動と勉強の両立に悩み苦しんでいる。
- 生徒の自己管理能力は、本人の自覚と保護者や教員からみた実態がかなりずれている。
- 学校が発信している情報は、生徒が仲介している限り、完全には伝わらない。生徒が伝えない情報のなかには、保護者が強く知りたいことも含まれている。学校と家庭間の情報のやりとりは、今後ホームページがさらに重要性を増すと考えられる。

レポート9. 『学校が楽しくない』を見つめてみた

今年度、全校生徒の中で設問1「学校に行くのが楽しい」に対して、「あまりあてはまらない」と答えた生徒が137名、「あてはまらない」と答えた生徒が42名、合計179名（約20%）いた。これらの生徒が他の設問に対してどのように答えているのかを探ってみたところ、以下のような傾向がみられた。

- ・科目選択や進路関係に関しては満足感を持っている。（設問5～9）
- ・60%は授業に集中していて（設問2）ある程度理解はできている（設問3）。が、残りの40%はあまり理解できていないようである。
- ・65%はわからないことは先生には聞かない（設問4）
→約半数は塾に通っている（設問25）…塾で聞いているのか？
- ・相談する相手がないが20%いるのは不安。（設問29）でも51%は親身になってくれる先生がいると言っているのは少し安心。（設問10）
- ・保健室や相談室は相談をするにはハードルが高い？（設問11）
全体の数も③④のほうが多い。でも徐々に①②の数値は年々増加している♪
- ・勉強は平日16%、休日20%がほとんどしない。（設問22・23）
そのくせ心配事は成績58%（設問28）。意外に結構勉強している子もいるんだけどね。部活との両立も悩みやし…60%（設問18）

設問1で「あまり」「ない」と答えた生徒179名の他の設問への回答状況（%）

回答	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
よく	11.2	11.2	9.5	11.2	11.2	11.2	11.2	11.2	10.1
やや	47.5	47.5	25.7	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	41.3
あまり	33.0	35.2	11.2	12.3	21.2	19.6	6.1	25.1	27.9
ない	8.4	7.3	47.5	5.0	16.8	5.0	5.6	8.4	20.7

回答	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19
よく	2.8	11.2	11.2	7.8	22.3	6.1	9.5	10.6	14.0
やや	29.6	47.5	47.5	45.8	34.6	35.8	46.9	29.1	44.1
あまり	11.2	24.6	26.8	24.6	30.2	40.2	31.3	37.4	29.6
ない	47.5	7.8	9.5	21.8	12.8	17.3	11.7	22.9	12.3

回答	問20	問21	問22	問23	問24	問25	問26	問27	問28
よく	10.1	8.4	23.5	17.9	53.1	48.0	32.4	13.4	57.5
やや	38.5	39.7	12.8	12.8	23.5	45.3	64.2	31.8	17.3
あまり	31.3	31.3	29.6	20.7	8.4	5.6	2.2	31.3	13.4
ない	20.1	20.7	17.9	27.9	13.4	0.6	0.0	18.4	1.7

レポート 10. ネガティブな回答

保護者からいただいた回答の中で、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」と答えた割合が多い設問ベスト5をあげると・・・

(末尾の数字は ③あまり+④ない の全体に占める割合)

- 1位 「授業が分からない場合は先生に聞いているようだ」 (39+16=55%)
- 2位 「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」
(45+8=53%)
- 3位 「子どもは授業のことについて家庭でよく話している」 (35+16=51%)
- 4位 「子どもの健康について気軽に相談できる」 (38+11=49%)
- 5位 「子どもは進路決定に必要な資料や情報を自分で集める努力をしているようだ」
(31+11=42%)

保護者からの回答の中で、ネガティブな回答が30%を超えるものは10項目あるが、とりわけ上にあげたものは40%を超えているので、注意が必要だと思われる。

ただ、3位に「子どもは〇〇を家庭でよく話している」が入っているように、そもそも子どもと保護者の意思疎通がそれほど密ではなく、その結果として1位、2位の項目も上位に入っているようにも考えられる。とにかく保護者の方々の多くは、より学校の(子どもの)様子が知りたくて仕方がないようである。昨今の競技会の観覧の様子にもそれが反映されている。リニューアルされたホームページの活用を含め、きめ細かい連携は今後も重要な課題のひとつである。

<最後に>

今年も委員の方々から熱心なレポートが寄せられました。集計結果として、例年と大きく異なるものが現れたわけではありませんが、様々な角度から視点を変えて眺めてみると、いろんな景色が目に入るものです。委員各位が時間をかけて分析したレポートを、ご一読いただけたのなら幸いです。

全体を眺めてみると、満足度に関わるレポートが少なからずありました。生徒や保護者の満足度に関しては例年レポートが寄せられますが、今年は ①情報提供、②行事参加、③講習参加、④教員との信頼関係、⑤1, 2年時の進路指導、⑥設備・環境 などの視点で述べられています。行事・講習に積極的に参加している生徒、教員との信頼関係が出来ている生徒の満足度が高いのは言うまでもないことですが、一層の満足度向上のためには、1, 2年次の丁寧な進路指導(キャリア教育)が効果的ではないかということや、環境整備の重要性も指摘されました。また、情報提供に関しては、相変わらず保護者からの厳しい意見が寄せられています。もちろん、学校側の更なる工夫(新しいHPの活用も含めて)も大切だと思われませんが、そもそも生徒と保護者の間の意思疎通が薄くなっているのではないかと指摘もありました。それを踏まえての努力も、学校・家庭ともに必要だと思われれます。

他方、「単位制が安定期を超えてしまっている」との指摘もありました。これまでの取り組みには一定の評価が得られていますが、いつまでもそこに留まってはいただけません。校内のICT化をはじめ、新しいカリキュラムの構築など様々な観点で「新しい安心・安定に向けた取り組み」を考える時期が来ているのかも知れません。ただし、決して単位制そのものを否定するものではありません。